

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1951380003		
法人名	医療法人 社団 青虎会		
事業所名	グループホーム はまなす		
所在地	山梨県南都留郡富士河口湖町船津2207		
自己評価作成日	平成28年8月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年9月5日(月)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

観光資源、自然環境に恵まれた立地条件で、外出機会を設けやすく入居者は活動的である。畑の採れたて野菜での料理を入居者と共に実施。またご家族の手作り野菜を料理し、交流が盛んである。リスクマネジメントの取組で、気付いたことをヒヤリハットシートに記入し、入居者の危険を事前に防止するように努めている。ご家族との連絡を密にし、要望、苦情に傾聴できるよう努めている。自治会加入し、祭り、清掃へ参加し入居者は地域の一人となり、積極的に外出している。職員間で対応に悩んだことを共有し合い、信頼し働いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富士山麓の市街地にあり、法人の老人保健施設等の施設が隣接し、施設間同士の連携が取れて自然環境も大変良い所である。施設では猫2匹と犬1匹と入居者がゆったりと時を過ごしている。動物を使ったアニマルセラピーも行われつつ、自然な形で支援が行われている。利用者の笑顔と職員の笑顔がみられ、みんなで家庭生活の場といった雰囲気がある。職員間の移動もないので、高齢の入所者の得意とすることや、好みも理解した中で細かい支援ができ、職員同士のコミュニケーションもとれて楽しく生活を営んでいる。菜園から収穫した野菜等を使って旬の美味しいものを食べる様に努めている。デザートには「シャインマスカット」などが出て、「いつも美味しい物を食べています」と幸せそうな笑顔で利用者が話している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホームはまなす

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に「地域の方々と共に、ゆっくり一緒に楽しく豊かに」という理念を掲示し、地域密着サービスの意義を職員全員が理解し、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスを展開している。	理念は誰にでもわかりやすい言葉で、目に付きやすいホールや事務所内に掲示されている。職員間でのミーティング時や申し送りの際、共有、確認して実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩中近隣住民が声をかけてくださる。犬、猫のベトがいて、近隣の子どもの交流につながっている。納涼祭には自治会の方々が多数参加される。自治会加入し、地域清掃、忘年会、祭りに準備から参加。GH新聞をご家族に定期的に配布し、地域の皆さんに回覧板でお知らせしている。	日常的に地域の方との交流は行われている。施設で飼っている、犬1匹、猫2匹が、散歩中に近所の人達に声掛けられ、動物を介して会話が弾んだりする。また、地域の祭りにも利用者が参加し、また施設の行事等にも家族や地域の方に参加してもらい、常に開かれた環境となって交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公園、公民館のゴミ拾いをし、活動的に行動し、地域高齢者の活動意欲を啓発している。ひばりやすらぎ会への参加など地域の高齢者の方々とふれあい、お互いを知る機会を増やしている。外出の機会を多く持つことで地域の方々に助けて頂き、認知症を知って頂く機会となっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、町役場、地域包括支援センター、民生・福祉委員等の方々に参加して頂き、入居者様の活動状況、評価への取り組み状況を報告し、貴重な意見を頂いている。意見交換や交流の場になりサービス向上につなげている。認知症の相談の場になるように声かけしている。	運営推進会議は定期的に開催されている。入居者の家族代表は交代で参加してもらい、利用者の参加もありホールで開催している。事業所の内容等の報告や行事時の写真などを見てもらい、参加者から意見をもらっている。利用者個々の入居時からの生活のアルバムを作り整理している。また、年2回、委員を交えた防災訓練を実施している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター担当者にGHの困難事例の相談をしたり、サービス担当者会議に参加していただくこともある。在宅での独居生活が困難な方の相談を受けることもある。お互いに情報共有や相談している。	運営推進会議の議事録を提出する際、地域包括支援センターの保健師、ケアマネジャーと、日頃の生活の様子の報告や相談等をしている。また介護保険担当者には、入所後の様子を伝えたり、待機者の様子を伺う等、常に情報交換が行われている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初より拘束によるダメージを周知徹底し、拘束は行っていない。玄関にドアベルをつけ、鍵をかけることはない。職員は入居者様が外へ出て行かれるときも一緒に行動している。入居者様が自身の想いを言いやすい雰囲気づくりや1人ひとり性格や行動を把握し対応をしている。	玄関の鍵はかけず開放されており、利用者は玄関に飼われている犬に和んでいる。また外に出た時は職員が行動を共にし、常に利用者のそばに寄り添った支援を行っている。また少し慣れてくると時として、何気ない会話の中でスピーチロックが出てしまうこともあるが、職員同士でお互い注意しあっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士、ケアで迷う時やつらい時は、申し送り時に一人で抱えずにお互いに、相談しあうようにしている。ひやり、はっとシートに記入し、少しの変化に大勢の目で気づけるようにしている。関連する新聞記事を掲示し、全職員に周知している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご本人の権利を代弁している意識を常に持ち、迷ったら「〇さんならどうしたいと思っているかな」と考えたり、ご家族に相談している。関連する新聞記事を掲示し、全職員に周知している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にて十分な説明を行い、理解、納得の上で同意をいただいている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホームはまなす

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口・第三者の窓口は、重要事項説明書に記載している。契約時に口頭で説明もしている。意見・苦情には、迅速な対応をしサービス改善に努めている。ホーム玄関に意見箱の設置をし、面会時声をかけするようにしている。	家族の面会時やケアプランのサインをもらう時など普段の会話の中から意見・要望やヒントをもらい、施設の運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の気づきを大切に、ミーティングや申し送りノートにて業務改善の話し合いをしている。毎週の検討会に参加し、入居者様の対応で心配なことを相談している。入居者様にとって、必要なことは迅速に変更し、管理者への相談、報告、全職員が統一した対応に心がけている。	日々の介護の中での気づきを提案し、検討して改善に向けている。「ホールの畳の場所で排泄介助を行なう際、プライバシーの確保の意味でカーテンを取り付けたい」との提案の実践や「トイレの扉の工夫」など多くの意見が出て検討されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に働きやすい職場を目指し、声掛けを実施。相談に対し、互いに思いやりをもち、悩みや困り事など管理者を含め、都度、迅速な話し合いを実施。年2回全職員との面談機会を設けている。敷地内に保育園があり、子育て中の職員の支援や働く時間帯の相談など協力ができている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全国・県GH協会に加盟し、研修、勉強会に参加。学習委員会を中心に月1回勉強会を実施。参考になる書籍をおき、読めるようにしている。研修に参加した職員は、研修報告をだし勉強会にて報告し、他職員に伝達。併設老健と合同で指導委員会を設け、日々の指導の見直しをしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の研修等に参加し、業務上の悩みを話し合っている。年末のご家族との大掃除など、他ホームが実践しているよい例を、取り入れている。他でのターミナルケアの様子も教えていただき情報交換している。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず入居前には訪問調査を行い、入居者様の状態の把握と不安や悩み、要望の聞き取りをしている。入居前の担当介護支援専門員や地域包括支援センターより情報を聞き取るようにしている。入居前にご家族とお茶飲みにきていただいている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず入居前には訪問調査を行い、入居者様とともにご家族の不安や悩み、要望の聞き取りをしている。家族構成、生活歴等をふまえて対応している。入居前にご家族とお茶飲みにきていただいている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族からの情報をもとに見極め支援している。GHの説明を十分に行い、入居前には、実際に見学に来ていただき、お茶飲みをしたり、雰囲気を知っていただくようにしている。必要時には、地域包括支援センターや併設老健の相談員に相談している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の立場となり考え、先回りしすぎず、入所者様のペースで生活できるよう支援している。食事作りや漬物作り、外出、買物、家事を入居者様とともにを行い調理方法や味付け等を教えていただいている。畑の野菜の収穫で農業をされていた方に教えていただいている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホームはまなす

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の持っている悩み、不安を共有し、入所者様と一緒に支えていく関係を築いている。特に、行事、大掃除と一緒に参加していただくことで、共有できる機会をつくるようにしている。写真をたくさんとり個人ごとにアルバムを作成し、ご家族にもみていただいている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の大切な人とのふれあいとして家族交流会や納涼祭等に参加いただき、家族と一緒に食事をし交流していただいている。入居者様の自宅や行きたい場所への外出支援をしている。地域の方と会う機会をもっている。	毎日の食材の買い物等はスーパーなどではなく、近所の店に行き、顔なじみになっている。入居者は行きつけの美容院に行ったり、来所してカットしてもらったりと、入居前からの関係継続の支援に努めている。友人の面会や手紙の交換、また、ホームの行事の際には家族、地域の方の参加等で楽しく交流を図っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の一人ひとりの性格を把握し、職員が中間役となり、入居者様全員で楽しく話したり、けんかしたり、支えあい生活出来るよう支援している。気の合う方同士、居室で話をされたり、愚痴をこぼしたり、体調が悪い時は声かけに行って下さる。			
22		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、ホームに遊びに来ていただいたり、近況報告をしている。入居者様が会いに出かけることもある。近くに来たからと、近況や、自身の介護体験を話しに来てくださるご家族もいる。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で意向の把握や日々の生活リズムの把握に努め、ケアに活かしている。また、良い表情をされていたり、喜ばれていることを一人ひとり把握し、職員間で申し送りを行い、その方にとって一番良い方法を常に話し合い実践している。	コミュニケーションがうまく取れない利用者は、日々のケアの中で利用者の表情見て何の訴えか職員間で把握し共有し、声掛けの工夫に繋げている。「ゆっくり一緒に楽しく豊かに」理念を本人本位に実践している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に訪問調査し、ご本人、ご家族から情報を得ている。面会時に状況報告すると、「そういえば・・・」と在宅でのことを教えていただき、ホームでの生活に取り入れている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居される前に訪問調査して、入居者様一人ひとりの状態を把握している。こだわりや思いの強い部分へは、職員が同じ対応をできるように日々の申し送りを大切にしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族の要望を聞き取り、アセスメントやモニタリングを行っている。また、介護ミーティングにおいて意見交換し作成している。状態変化時に見直しを行っている。	入居時は居宅のプランを参考にし、自宅での生活の様子を見ながら、入居しての生活の流れの中で、仮のプランを作成している。日々の状況の観察を行ない、記録から、アセスメント、モニタリングを行ない、3か月後には本プラン作成。全員の職員が常に利用者に寄り添い、意見交換をして現状に即した計画を作成し、支援が行われている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事や状態は、毎日具体的にカルテや申し送り表に記入している。また、ヒヤリ・はっとシートにも記入し介護計画に反映している。申し送りにて日々の変化を詳しく把握し、情報の共有・実践・介護計画の見直しに活かしている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームはまなす**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設と協力し合い、柔軟な対応をしている。GHだからと、とらわれずに、何がこの方に必要かをみていくようにしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族交流会や納涼祭等を企画することにより、多方面のボランティアの方々やご家族、近隣住民に参加していただいている。日常的に近隣施設等も利用している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望される医療機関へ受診されている。ご家族が対応できないときは、事業者が受診支援し、ご家族と情報の共有に努めている。体調不良時は併設施設の医師や看護師に報告しみてもらい、対応やご家族への連絡をしている。	利用者の5名程は以前からのかかりつけ医に家族の協力で受診を行なっている。受診時は受診表に日頃の様子を記入して家族に渡し、家族又はかかりつけ医から情報を得ている。そのほかの利用者は、法人のクリニックに職員の対応で受診をしている。体調不良の際は家族と相談しながら対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師の協力が得られている。1日1回は入居者様の健康状態のチェックに来てもらっている。また、夜間帯もすぐに相談でき対応できる状況にある。看護師より民間療法(家でできること)の指導も受け取り入れている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医やご家族に話しを聞き、連携を図っている。入院した場合は、すぐ様子をみに行き病院関係者と協力し合っている。ご本人の経過の把握や元気づけるため定期的に入居者の方と共に面会へも行っている。その都度、ご家族へ連絡している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご本人、ご家族の意向を聞き、かかりつけ医、併設老健の医師等と連携を取っている。カンファレンス、ミーティングを随時行っており、入居者様の状況確認をしながらチームの連携を図り支援を行っている。日々のケアの延長として併設老健と協力し看取りケアの支援もしている。	入所時、本人・家族の意向を聞き、又、施設の意向も伝える中で、体調の変化が生じた場合はかかりつけ医と家族も交えて相談し対応策を検討している。希望がある場合には施設で併設の老人保健施設と協力して看取りの支援ができることも伝える。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会により応急手当を出来るようにしている。事故発生時の連絡方法も周知、掲示している。運営推進会議にて消防署の協力を得て毎年、AEDの使用等の指導を受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練をしている。町の消防署の協力や運営推進会議でも協力をお願いしている。9月1日近辺で実施される地域の避難訓練にも参加し、顔馴染みでお互い様の関係づくりをしている。夜間を想定した避難訓練をしている。	総合訓練(運営推進会議の委員、消防、老健、地域)は年1回実施運営推進会議の委員と地域の方を交えての訓練を年2回実施している。施設内訓練は毎月行う予定だが実施出来ない時もある。最近では夜間火災を想定した訓練を行なっている。各居室の入り口に防災ずきんが用意されている。	最近では事故や、災害のニュースが報道され、身に迫るものを感じられる中、夜勤者が利用者の安全が確保できるのかといった観点から夜勤を行う職員は夜間を想定しての避難の方法を心得ることが必要である。施設内の訓練の実施、工夫等に期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりに合わせた対応をし、入居者様の快い生活を求めて介護に従事している。個人情報の取り扱いには十分配慮している。自尊心を大切に声かけをしている。	入居者によっては方言での話しかけなど、一人ひとりに合った声掛けの大切さを職員間で共有し対応している。また、記録簿等の管理は職員同士で特に注意して管理を行なっている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホームはまなす

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立は入居者様に食べたい物を伺ったり、買物時希望する食材があれば献立に取り入れている。買物時、個人のおごつかいで食べたいものを購入する方もいる。希望時、外出するなど入居者様の自己決定を大切にしている。職員から提案し入居者様の気持ちを汲取れるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースで仕事をするのではなく、入居者様の立場となり考え、入居者様のペースで生活できるよう支援している。タイムテーブルはなく一人ひとりの生活のペース(入浴や散歩や昼寝)を把握するようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望を第一に、個性を大切に支援。一人ひとりに合わせ好きな服やエプロンなどを勧めている。理容室へは希望で外出し、馴染みの美容師さんが定期的に出張しホームでカットされる方もいる。お化粧する方は必要なことを介助し、おしゃれを楽しんでいただくようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来ること、好きなことを考慮し、季節感を取り入れ、一緒に調理、準備、片付け、畑の野菜収穫を実施。一緒に楽しく召し上がれるようにしている。誕生日にケーキや好物を献立に取り入れている。個々に合わせた食形態で提供し、嚥下困難な方は注意し食事介助をしている。	買い物に動向する方、調理に参加する方、片付けは全員でと、出来ることをしながら参加している。また、野菜などの食材の差し入れが多いため、食事内容も旬の物を取り入れて豪華で、利用者は「毎日がお祭りようだ」と会話も弾み、職員と一緒にホールで楽しく食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の栄養士に相談し、水分摂取はこまめに職員が働きかけ、摂取量の少ない入居者様には声かけ、介助している。日頃より水分摂取の大切さを入居者様に話している。嚥下の困難な方にはOs1ゼリー対応。10時、15時には果物や好きなサイダーを勧めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、フロア洗面所で入居者様に合わせた口腔ケア、舌のケアを実施。眼前に義歯洗浄の声かけ、介助を実施。風邪予防になると必要性も話している。併設老健の言語聴覚士や歯科衛生士に相談し、必要時は口腔内をみてもらう。嚥下体操、歌を実地。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合ったリハビリパンツやパットを使い分け、ご自分でトイレに行くことの少ない方には、自立に向けトイレ誘導を実施。トイレ動作がわからない時も水分を促し、失敗しても傷つかないように対応。随時、下着交換を介助し、更衣動作可能な方は居室にカゴをおき、汚れ物を入れていただいている。	日中はほぼ自立しているが、時間を見ながら誘導している。夜間にオムツを使う方、ポータブルトイレを使う方がいるが、コールで対応するなど、自立に向けた取り組みに励んでいる。排便チェック表を記入し、本人の状態に合わせた服薬及び牛乳等の摂取や散歩等で支援を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防とし、毎朝は牛乳、お風呂上りや散歩後などは適時ヤクルトを飲んでいただいている。また、可能な限り散歩へ行っている。便秘予防のメニュー(サツマイモ、バナナ、果物)を配慮している。水分を多くとるようにしている。主治医へ相談し服薬されている方もいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入れるようになっている。利用者の好み時間帯や間隔や温度を把握して声かけしている。入浴好きな方は毎日、苦手の方は声かけし、気持ちよく入っていただけるようにしている。それぞれの好きな入浴剤を使用している。	入浴日、時間は利用者本位にしている。居室から衣類を持って入浴する利用者、入浴拒否をする利用者には声掛け誘導を行ない、入浴中の声掛・見守り、背中での洗身、洗髪等の介助を行っている。乾燥肌の利用者には手ぬぐいの工夫やシャンプーを使わない、オリーブ油を塗る等の配慮をしている。プライバシーの保護には特に注意した支援を行なっている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホームはまなす

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の健康状態、生活リズムに気をつけ、休息が取れるようしている。夜眠れない入居者様には、日中の活動や日光浴を増やし生活リズムが出来るようにしている。天気の良い日に布団干したり、寒さがある方には、湯たんぼや電気毛布を使用、居間では畳やこたつで休めるよう環境作りしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人ひとりの薬説明書をカルテにはさみ、すぐに確認が出来、理解できるようにしている。薬への依存の強い方は、主治医に相談し、プラセボ薬を服用し安心できるような声かけをしている。薬変更時はご家族と情報共有している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居される前に生活歴の情報を得て、好きなこと、得意なことを活かした出番を見い出せるような場面作りの支援をしている(家事、外出)。季節に合ったイベントや料理を取り入れ、今を楽しみ感じていただくようにしている。情報を共有し日々、一人ひとりの今を知ることに努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や散歩、日光浴、ゴミ捨て、洗濯物干し、散髪に出かけて日々の中で外に出ることを当たり前に行っている。入居者様の希望する所に可能な限り出かけている。週1度自宅に外出付添いしたり、馴染みの場所(初詣、お祭り)に外出している。ご家族とともに出かける機会を作っている。	食材の買い物、洗濯物干し、菜園での収穫、散歩など日常的に外出の機会が多く、入居者の希望はほぼかなえられている。(散髪に行く、受診する)また週1回は自宅に帰る利用者もいる。地域のお祭りなどに外出する機会が多い。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ご家族の希望もあり職員が行っているが、買物時に入居者様から支払ってもらう等の支援をしている。お金を持ちたいと希望される方には、ご家族の了解を得て、一定の金額を自己管理していただいている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より電話をかけた、手紙を出したいと希望のある時は、その都度支援している。不安な時は、ご家族の声をきき安心されている。手紙が届いた際にはご本人に返事を書いていただき、手紙のやり取りをされている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏場はカーテンやエアコンにて温度調整し、冬場は石油ストーブを出すなど、居心地良く家庭的な雰囲気づくりを心がけている。食事テーブルとソファの位置を季節ごとに模様替えし入居者様にあった席を工夫している。玄関や居間など季節折々の花を飾り季節感を取り入れている。また、行事の飾りを皆さん楽しんでいただけるようにしている。	共有空間のホールは畳の場所や、大きいソファでテレビを見にくろげる。台所は対面式で、食事の支度の風景、煮物の匂い、音などを感知することが出来る。窓の外は洗濯物を干す場所があり利用者が干したり、畳んだりしている。ホールの玄関先に猫の餌や犬の餌が置いてある。2匹の猫はホーム内を自由に生活している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間はソファで、自由な時間を過ごすことが出来る。玄関先のポーチ部分や二階廊下に、椅子を置き、入居者様の団楽の場となっている。畳部分は昼寝やくつろぎの場と共に、体調不良で点滴をしたり、看取り時に布団をひき、すぐにそばでさみしい思いをされないように対応する場となっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた愛用品を持ち込んでいただくようにして、ご本人とご家族で居室の配置をしていただいている。また、必要なものはその都度用意して頂いているので、入居者様は安心して過ごされている。	居室の入り口には手作りの表札、家族と一緒にの写真、猫の顔の絵が飾られている。室内は清潔感があり、自宅で愛用していた家具(桐箆笥・冷蔵庫・ソファ鏡)などが設置されて、希望に応じて畳の部屋、フローリングの部屋、ベッド、布団の使用など、利用者が家族と相談して、居心地よく過ごせる空間になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームの要所には手すりが設置してある。流し台は、作業しやすいように低くなっている。立ったまま靴を履くことが困難な入居者様が多いので、玄関に椅子を置いている。浴槽内にも転倒防止のため、滑り止めマットを敷いている。立ち上がりの困難な方には、浴槽内の椅子を使用している。			